

接地工事の種類

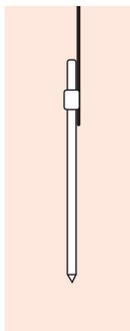
接地工事の種類、内容は表のとおりです。

種類	接地抵抗値	接地線の太さ	対象施設	準拠規格
A種	10Ω以下	2.6mm以上の軟銅線	・特別高圧用計器用変成器の二次側電路、 高圧または特別高圧用機器の鉄台の接地など ・高圧または特別高圧の電路に施設される避雷器に施す	電気設備 技術基準
B種	変圧器の高圧側 または特別高圧側の 電路の一線地絡電流値で 150を除いた値以下	4mm以上の軟銅線 (高圧の場合2.6mm以上)	・高圧または特別高圧電路と低圧電路が混触するおそれがある場合に、低圧電路の保護のため結合する変圧器の低圧側中性点または-端子に施す	
C種	10Ω以下	1.6mm以上の軟銅線	・300Vを超える低圧用機器の鉄台の接地など	
D種	100Ω以下	1.6mm以上の軟銅線	・高圧用計器用変成器の二次側電路、 300V以下の低圧用機器の鉄台の接地など	

種類	接地抵抗値(参考)	引下げ導体の太さ	対象施設	準拠規格
避雷設備 (避雷針)	単独:50Ω以下 総合:10Ω以下	銅:16mm以上 アルミ:25mm以上 鉄:50mm以上	・高さ20mを超える建築物 ・指定数量の倍数が10以上の危険物製造所 ・火薬庫	JIS A 4201 (2003)

接地工事の工法

● 単独打込工法

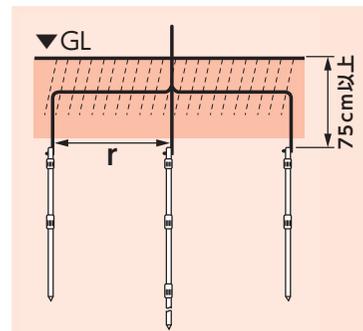


● 連結打込工法



抵抗値が
下がらない場合は
複数本を並列に
打込んでください。

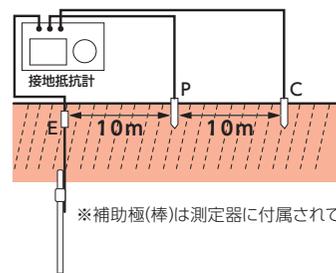
● 並列打込



接地棒の間隔rは打込み深さの2倍以上にすると、より効果的です。

接地抵抗の測定

接地抵抗計の端子Eを接地棒に、10m離れた場所に差し込んだ補助極に端子Pを、更に10m離れた場所に差し込んだ補助極に端子Cを接続して測定します。



※補助極(棒)は測定器に付属されています。